

特集 人権を考える

「人権」ってなんだろう

人権（ヒューマン・ライツ）とは、一口で言えば、私たちが社会生活において幸福な生活を営むためにどうしても必要な権利です。この権利は、世界人権宣言や日本国憲法によりすべての人間の自由平等差別禁止の原則が定められ、基本的人権として保障されています。私たちは、他人の基本的人権をお互いに尊重しあうとともに、それを自分たちの手で大切を守り育てていかなければなりません。

考えてみようよ…「人権を」

みなさんは「人権」という言葉からどんな印象を受けますか。「なんだか堅苦しく難しいもの」、「自分に関係ないもの」と感じていませんか。何も難しいことはありません。

「人権」を大切にすることとは、「命を大切にすること」や「みんなと仲よくすること」です。誰もが、自分の命を大切にし、人間らしく幸せに生きていくと願っています。

「人権」はみんなが生まれながらに持っている権利で、誰にとっても身近で大切なものなのです。ですから、私たちが自分の「人権」を大切に思うのと同じように、他の人の「人権」も大切に

なければなりません。

でも、今の日本では「人権」が大切にされているでしょうか？

みなさんも、テレビのニュースなどで悲しい事件を目にすることがあるでしょう。子どもが「いじめ」を苦にして自殺したり、お年寄りがひどい目に合わされたり、女性が暴力を受け傷つけられるなど、どれもが悲しくて痛ましい人権問題です。

こうした人権問題をなくすためにみなさんにできること…それは、まず相手の立場を思いやることです。

私たちは、さまざまな人権問題を正しく理解するとともに、一人ひとりが大切にされる住みよい社会の実現をめざして努力していくことが必要です。

「基本的人権」とは

私たち誰もが「幸せに暮らしたい」、「人間らしく生きたい」と願っています。そのために、

- ・自由にものが言える
- ・互いの合意で自由に結婚ができる
- ・教育を平等に受けられる
- ・自由に職業が選べる
- ・健康で文化的な生活が送れる

これらの権利を総称して「基本的人権」といいます。つまり、全ての人が「幸せに生きる権利」で、非常に大切なものです。

さまざまな人権課題

女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人、感染症患者等、ハンセン病問題、罪や非行を犯した人、その他（プライバシーの保護、インターネット・コンテンツの推進、インターネットによる人権侵害、犯罪被害者の保護、拉致問題など）

山口県人権推進指針

「県民一人ひとりの人権が尊重された、心豊かな地域社会をめざして」

基本理念

山口県民すべてが一生の間、家庭、地域、職場、学校、施設、その他あらゆる場において、自分の人格が尊重され、他人の人格を尊重して自由で平等な生活を共に営むことができるよう、一人ひとりがかけがえない尊いいのち（生命）の主体者であるという、人間尊重を基本的な考え方として、「県民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会」の実現に向け、総合的に人権に関する取り組みを推進します。

キーワード

基本理念に基づいたさまざまな取り組みを進めるため「いのち（生命）」「じゆう（自由）」「びようどう（平等）」「きようせい（共生）」をキーワードとして諸施策を推進します。

いのち（生命）

だれもが、かけがえない「いのち」を大切に地域社会の創造をめざします。

じゆう（自由）

だれもが、他人を害することなく、自由で自立した生活の出来る地域社会の創造をめざします。

びようどう（平等）

だれもが、社会の一員として等しく参加・参画できる地域社会の創造をめざします。

きようせい（共生）

だれもが、多様な文化や価値観、個性を尊重し、共に暮らせる地域社会の創造をめざします。

今年、こんな人権教育を実施しました

長門市では、長門市人権教育推進委員会を中心として、人権問題を市民的課題として解決するため、すべての市民に対して人権についての正しい認識を広げ、人権問題の完全解消をめざし、さまざまな人権教育を実施しています。

第1回人権教育セミナー

映画視聴およびワークショップ

- とき 7月24日(木)
- ところ 長門市立図書館
- 参加者 50人

本年度、第1回目のセミナーは障害者問題を扱った35分の映画「今日もよか天気たい」を視聴いただいたあと、8つのグループに分かれて、ワークショップを行いました。ダイヤモンドランキング法という手法を用いて個々の意見を出し合い、自己の人権問題に対する課題意識を整理すると共に、他者との共通点や相違点を見いだす活動となりました。

《参加者感想》

・ダイヤモンドランキング法というものを初めて知りました。大事なのはランキング自体ではなく、ランキングを通してお互いの考えを出し合い、いろいろな価値観に気づくことだと分かりました。
・人によって価値観が異なることがよくわかりました。また、今日の映画は誰が見てもすばらしいと思える社会が形成されていたが、あんな社会が築いていけるよう少しでも自分ができることをしていきたい。
・相手の立場に立つて物事を考え、そして勇気をもって行動する力が、自分にもっと必要だと感じました。子どもたちには、障害のある方々にも思いやりをもって接することができるように育てていきたいと思いました。

長門市人権フェスティバル

- とき 8月3日(日)
- ところ ラポールゆや
- 参加者 450人

障害者の人権・夫婦愛をテーマに、



真屋順子さん（女優）・高津住男さん（俳優・演出家）夫妻を講師にお迎えしました。真屋さんは、夫の高津さんと共に劇団「樹間舎」を設立、また、脳出血で倒れてからも高津さんと二人三脚の講演活動を精力的に行っておられます。お二人の掛け合いをしながらの講演は、会場のみなさんに思いやりの大切さや豊かな生き方を自然と心にしみこませていただきました。
また、今回は国際理解を深めていたために、中国民族楽器奏者の王丹さんをお迎えし、ミニコンサートを行いました。傍げで哀愁漂つ二胡の音色が会場全体を温かく包み込み、参加者の心を癒し尽くしてくれました。

《参加者感想》

・二胡の演奏を初めて聴きましたが、



ゆったりとした気持ちになり心が洗われました。
・王丹さんの素晴らしい二胡の音色に心癒され、真屋さん・高津さんのおもしろくも心穏やかな講演に感動しました。相手を尊重することの大切さ、気遣い、共に認め合うことの大切さをあらためて感じる事ができました。
講演では、お二人の愛に満ちた穏やかな語り合いを温かい気持ちになるのを感じながら聞くことができた。「乗り越えられる悲しみや苦しみを与えられる」「頑張らないけどあきらめない」心に響く言葉をありがとございました。
・体は不自由であるが、自然でありのままに生きておられる姿を見て、自分の生き方を見つめ直すことができました。相手を思いやり、豊かな人生を送っていききたいと感じました。